

シオンの子

第 31 号
2013.11.28



第33回児童文化奨励絵画展
「川あそび」 小学3年 男児

お花やさん

小一 女児

わたくしは大きくなったらお花やさんになりたいです。あさがおやひまわりがすきだからです。
お花のたねもすきです。たねを土にうめて水をあげると大きくなって、きれいなお花がさくからです。
なつ休みに、あさがおをシオンホームにもつてかえつてきました。
あさ、自分でお水をあさがおにあげました。たくさんあさがおがさいて、とてもうれしかったです。
大きくなったら、バラやヒマワリやいろいろなお花をさかせてみたいですね。そして、たくさんのお花があるお花屋さんになりたいです。
これからもお花をたいせつにしたいです。



編集
発行 印刷
ホームページ

社会福祉法人子持山福祉会
児童養護施設 子持山学園
<http://www.komochiyama1952.com/>

〒377-0203 群馬県渋川市吹屋 201-1
TEL 0279-23-1152 FAX 23-1153
Mail komochiyama1952@mist.ocn.ne.jp

皆さんへの感謝状

社会福祉法人子持山福祉会
理事長 島田 卓爾

あたりはやがてすっかり秋模様、寒い冬はもうすぐそこ、季節の移り変わりの早さには驚きます。ことしの異常気象は、酷暑に続き集中豪雨が日本列島を襲って多くの死者・行方不明者を出し、地球がどうにかなってしまっただのかと思う様でした。

こうした自然現象の猛威にへこたれることなく敢然と立ち上がって、強く雄々しく災害対処に伺う姿こそ人類普遍の歴史なのかもしれません。

私は、いつもこう考えます。社会的弱者とも言われる老人・障害を持つ人々、

子どもたち。その中でも特に両親の庇護から離れて過ごす一部の子もたちが自らの不幸を嘆き悲しむことなく、人間社会の温もりに浸りながらも自分の生きる途を探して歩む強固な精神力を養うよう園の先生方が指導して欲しいと願っています。それは、次の世代の同じ境遇の子どもたちにも伝えてゆかねばならぬ大切なことだからです。

本園では一昨年、耐震改築でシオン園舎が建ち、全舎の冷暖房装置が新しくなり一層の居住環境整備を進めることができました。

今年は、屋根の雨もりの大修繕と壁面塗装に続いて事務所の内部を改修して、事務の効率化をはかろうと予定されています。願わくは、今後小舎制に変わろうとする方向のもとにより受け入れ可能な施設を拡充してゆきたいと考えています。

逼迫する園や公共団体の財政の中で、大切な助成金をいただき、理解を深めて

下さっている事に深く感謝いたします。草創以来そのつどの懸案を一步步々進めてゆく過程で国や県・市、福祉活動を支えて下さる人々、そして毎日の使命を果たしてくる園長はじめ職員の方々に園児の名で感謝状を捧げたい気持ちです。

当たり前の家庭とは

児童養護施設子持山学園
施設長 豊田 誠

創立六十一年。今年も

「子どもの日の集い」はお世話になった人々や地域の人、家族、卒園生、友達等大勢来園され、にぎやかに楽しい交流ができました。

支援して下さる皆様の温かな励ましで、子ども達は夢と希望に向かって元気に頑張っています。ありがと

うございます。

十月には念願だった屋上の雨漏りと壁面の改修工事が始まり、事務所も改修をする計画です。ショートステイも初めて受け入れました。小舎制養育研究会の全国大会が湯河原で開催され、国の方向性も小規模化、地域分散化、家庭養護の推進が示されました。小規模化に取り組んでいる施設も増え、課題も明らかになってきました。施設により、建物、生活、勤務形態、食事、行事等も異なり、抱えている課題も対応の仕方も様々です。「あたりまえの生活」「あたり前の家庭」についてのイメージも施設により異なります。「経営と理想」、「人材育成と専門性」、「入所児童の状態像の重篤化や保護者対応」、「県、児童相談所、地域との連携」、「アフターケア、組織の活性化」等課題は大きい。

夏の甲子園大会。群馬の育英高校が優勝しました。地元出身で、ごく普通の高

校生が、全国の並居る強豪校になぜ勝つたのだろうか。荒井監督へのインタビューで「凡事徹底」という言葉が語られた。誰でもできることを継続し積み重ねることのすこさ、平等・公平・ミスをカバーするチームワーク。感動した。映画「そして父になる」は注目された映画です。赤ん坊の取り違え事件。共に生活を営み育てることと、親子の血縁について考えさせられた。生みの親と育ての親。子どもにとって必要な親とは、「隣る人」は親ではないがいつもそばにいてくれる自分を見つけていてくれる人。養護施設の先生。「先生の布団の匂いが世界で一番好き」と言う子どもの声。親とは、家族とは、子どもから問われている。施設も家庭的養護について答えを出さなければならない。





子どもの養育を考える

第12回 児童指導員 布施 聡一郎

星 トップスター

今年の夏も暑く、残暑と言
うべきか、夏が長く感じた。
秋らしい気候を感じる間もな
く、子どもたちも衣替えを済
ませた。そしてあと一ヶ月も
すれば、街はクリスマスイル
ミネーションに飾られ、クリ
スマス一色となっていく。
クリスマスと言えば、キリ
スト教の精神に基づく子持山
学園でも一大イベントになる。
園庭にも毎年恒例となったイ
ルミネーションが飾られ子ど
もも大人もクリスマスへと向
かっていく。
さて、何年前前になるが、
クリスマスに関する話を目に
したのを思い出した。記憶が
定かではないので、多少のニ
ュアンスの違いは、勘弁を。
ある丘に、三本の木が立っ
ていた。オリーブの木。榎の
木。そしてもみの木。ある時
もみの木は口にした。「僕は
オリーブの木みたく、よい香
りを放つことも、榎の木みた
く、葉で風を送ることもでき
ない。葉はとげとげして、何
の役にも立たない。」
そんな光景を見ていた空の
星がもみの木の頭に下りてき
て言った。

「この星の輝きでみんなを導
く光となればいい。」

クリスマスツリーには、欠
かすことのできない星。トッ
プスター。この星こそ、東方
の三人の博士たちを幼子イエ
スへと導いた輝いた星。
学園には、現在五十人近く
の子どもたちが暮らしている。

もちろんその一人一人が違っ
た個性をもち、それぞれの人
格をもつ。みなそれぞれの場
で神の子として輝いている。
しかし、全てがうまくいくこ
とばかりではない。生育歴や
生いたちの中で、劣等感を感じ、
友だちや一般家庭の子を
羨ましく思う場面も少なくない。
しかし、天の神は、もみ
の木に下りてきた星同様に、
常に見ていてくれていた。そ
して、その時々に必要な糧を
与えてくれていた。その全て
に感謝することは、今は難し
いかもしれないが、いつの日
か、自らが持つているタラン
トを活かし、みなを導く輝く
星となつて欲しい。



『将来への決意』

中学三年 男児

僕の将来の夢は、戦争
や食糧不足で困っている
人達を助けることです。
そのために、僕は「国境
なき医師団(通称MSF)」
の一員として活動したい
と思っています。

国境なき医師団では、
国境を越えた手助けをす
るのを前提とし、食糧や
生活で困っている人達を
助けます。例えば、食糧
不足で困っている人達の
ところに食糧を届けたり
水道管の設備、スラム郊
外ではゴミの処理なども
します。他にも勉強を教
えたり、病気を治したり
いろいろ文化やスポー
ツなどを教えたりします。
MSFでは、このような
さまざまな援助をしてい
ます。
では、MSFで活動す
るためにはどのようなこ
とが必要か、三つ考えま
した。

一つ目は、医師になる
ことです。そのために、
しっかりと計画を立てて
勉強し、苦手な教科をな
くして成績を上げていき
たいです。また、世界に

も目を向けて、経済格差
やスラムなどをどうした
らなくせるかを考え、発
展途上国やスラムの人々
がよりよい暮らしができ
るように手助けができる
医師になりたいです。

二つ目は、英語で話せ
るといことです。さま
ざまな国の人が集まって
援助をするので、MSF
の活動では英語で会話を
することが多いと思いま
す。今から英語の勉強に
力を入れ、必ず英語を話
せるようになりたいです。

三つ目は、健康で体力
のある身体作りです。発
展途上国やスラム郊外で
は、伝染病や公害が多く
発生しています。その中
で働くのだから豊富な体
力が必要とされます。そ
のため今からきちんと
した生活を送りたいです。

今日でも戦争で苦しん
でいる人達が数多くいま
す。その中で、飢えて亡
くなつていく人達もいま
す。しかし、僕はそうい
う人達を救う医師になり
たいです。先の三つの目
標を達成し、MSFに加
入したいです。そして、
救える命を落とさず救う
のが僕の夢です。

(立志式 作文)



シオンホームでは現在、幼稚園の年少児、高校一年生の女の子六名が日々様々な感情をもち、時にはその感情をぶつけながら、毎日少しずつ個々のペースで心も体も成長中です。

先日、バスケットボール部に所属している、中学二年生のMちゃんが出場する、バスケットボールの大会を観戦しました。今年の夏に三年生が引退し、新体制となったチームにてMちゃんは副部長になり、そのチームでの初めての大会だったこともあり、私自身も今までとは違った緊張感の中の応援でした。その大会の決勝戦でMちゃんが三ポイントシュートを決め、良い表情をしてくれた時、私は

涙を我慢することが出来ませんでした。惜しくもチーム自体は負けてしまいました。一年生の時と比べて、あまりバスケットボールに詳しくない私にも分かるくらいの上達のしように驚き、また、そこに至るまでの本児自身の努力を思い返すと涙が止まりませんでした。

Mちゃんは早起きが苦手ですが、朝練がある日は朝早くに起き、必ず朝練に参加します。顧問の言った通りに動けなかつたり、先輩が引退した後、自分の力で乗り越えなければいけない部分も増え、悩んだりしながらもMちゃんは今も毎日奮闘中です。

子どもの成長を見守ることとは大変なことだと思いますが、その分の喜びは必ずあるのだと思います。子どもが奮闘しながら成長する姿を見守り、支えていきたいです。

シオンホーム

保育士 阿部野々香

ひかりホームの担当になり、六ヶ月が経ちました。とてもあつという間だったように感じられます。ひかりホームには二歳から高校三年生までの五人の女の子が生活しています。

二歳の子は今年の四月に学園に来ました。初めは慣れないせいですが、体調を崩すこともありました。今では、周りのお姉さん達に沢山可愛がってもらい、よく話をするようになり、表情もとても豊かになりました。その子に負けたくない元気がいっぱいな小学生もいます。何事にも積極的に学校では部活動に複数参加し、とても活発です。学園に帰って来てからも二歳の子の面倒をよく見てくれ、遊んだり、一緒にお風呂にも入ってくれます。もう一人の小学生は、マイペースでゲームが大好きです。漢字が得意で、色々な漢字を知っている漢字博士でもあります。優しい一面もあり、

優しい心の持ち主です。その小学生二人のお姉ちゃん、中学生が一人います。韓国が大好きで、帰ってくれば韓国ドラマばかり見ている。しつかり者で頼れる存在でもあります。一番上の高校生は、絵を描くことが得意でもマイペースな性格です。小さい子の面倒もよく見てくれます。そんな五人の子どもが集まり、笑い合ったり、喜びをわかち合いながら、時にはケンカをすることもありますが、毎日を共に過ごしています。子どもたちの気持ちに寄り添い成長を見守りながら、支援していけるよう努めていきたいと思っています。

ひかりホーム

保育士 高橋 里江

今年度の四月より新人職員として子どもたちと一緒に生活を始めて約半年がすぎました。五月の子どもの日の集いや夏のホーム旅行など様々な事がありました。

その中で泣いたり笑ったり、怒ったりして毎日毎日、充実して過ごす事が出来ました。

のぞみホームでは高校三年生、中学三年生、小学六年生が一人ずついます。新しい環境でスタートを切るために悩んだりして準備してきましたがそろそろ大詰めに向かえてきました。自分で決めた道を後悔する事の無いようサポートしていきたいです。

小学生の小さい子たちも元気過ぎる位元気で学校での行事や勉強を頑張っています。最初はどつなるのと不安な所もありましたが、子ども達の頑張っている姿を見て自分もしっかりしくてはと思えました。

寒くなり始め色々な事区切りのつく季節を迎えようとする中、様々な人と助けあい過ごして行きたいと思えます。

のぞみホーム

保育士 都筑 徹



「より家庭的な」環境を目指し、児童養護施設の小規模化への移行が強調されている近年ではありますが、実際には様々なハードルがあることも無視できません。学園では各ホーム五、八名の児童で少人数での生活を送り、一人一人に対しきめ細かなケアが出来るよう日々取り組んでいます。一方で、ホームは男女別の構成となっており、その為、異性兄弟が別々の家で暮らすといった実情が存在します。

入職して二年目、「ここに来る前は、お兄ちゃん・お姉ちゃんと一緒だったのに……。」と淋しそうに語る子どもの声を受け、別々のホームで生活する兄弟姉妹が一室に集い、同じ時間を共有できる機会を設定する

ことにしました。心理的ケアの実践は、必ずしも個人のみを対象とするばかりではありません。「きょうだいプレイ」と呼ばれるようになったこの取り組みでは、子ども達は個別のプレイセラピーとはまた違った一面をのぞかせることがあります。最初は照れくさそうにしていた子ども、きょうだいプレイの日を心待ちにするようになりました。また、共に過ごす時間の中で互いに思いやり・気配りを見せる姿に、何事にも替えられない家族の絆を感じさせられるものです。

臨床心理士 田中 朋子

自分の子は自分で

高校一年 女兒

「子どもを産んで、育てたい。私がそう思うようになったのはまだ最近です。中学生の頃までは、出産により痛い思いをしたくない、という理由で子どもは産みたくありませんでした。しかし、Aちゃんとの出会いが私の気持ちを变えてくれました。」

第7回ぐんまこどもふれあい大賞 最優秀賞受賞

以前、先生が不在で私とAちゃんだけになった時がありました。うるさくなると嫌なのでAちゃんにテレビを見させていたのですが、それが終わると案の定泣き出してしまいました。抱っこをしたり、おもちゃで遊ばせようとしたりしたけれど泣き止まず、結局その時はアメをあげて泣き止ませました。

しかし、改めて今考えてみるとアメを与えて泣き止ませるのは間違っていたと思います。同じ様なことがあった時、先生はAちゃんがどうして泣いているのかをじっくり聞き、話をして泣き止ませていました。自分ではそんなことも出来ないのに、先生にきつく言ってしまったことを思うと自分が情けなくなりました。

Aちゃんはまだ三歳なので、自分一人で行くことが出来ません。まだ見ぬ子に私と同じ道を歩ませたくありません。幸せになつて欲しいです。そのため、将来、子どもを出産したらたくさん愛情を注いで、どんな時も暴力を振るうことなく、叱るべき時は叱って、子どもが幸せと思える道を自分で歩いていける様にしたいです。

Aちゃん、私に子どもを産みたいと思わせてくれて本当にありがとう。これからますます元気に育つてね。

大人の様に上手に出来ないし、手伝わすとするとかえって怒ったり泣いたりします。そういう時育てる人の怒りが爆発し、暴力を振るってしまうのではないかと私は考えます。子育てはとて大変です。しかし、大変な子育てをするからこそ、感動や喜びを味わうことが出来ると思います。本当の家族ではないけれど、Aちゃんが私の名前を初めて呼んでくれた時、私を求めてくれた時、心の底から「嬉しい。」と思います。自分が産み、育てた子どもならもともと喜びを感じることが出来るでしょう。だから、子どもを傷つけたら育児放棄したりして、児童養護施設に子どもを入所させることなく、自分の手で子育てをするべきだと思います。

私は、自分の子は自分で育てます。今、ここに誓います。まだ見ぬ子に私と同じ道を歩ませたくありません。幸せになつて欲しいです。そのため、将来、子どもを出産したらたくさん愛情を注いで、どんな時も暴力を振るうことなく、叱るべき時は叱って、子どもが幸せと思える道を自分で歩いていける様にしたいです。

Aちゃん、私に子どもを産みたいと思わせてくれて本当にありがとう。これからますます元気に育つてね。

活動報告

平成25年5月～平成25年10月

- ・子持山学園「子どもの日の集い」
- ・全日本プロレス観戦招待 (SUSHI選手、浜選手来園)
- ・群馬銀行創立80周年記念「由紀さおり・群馬交響楽団コンサート」招待
- ・子持山登山
- ・群馬県ALT(外国人教師)来園交流
- ・渋川教会
- ・花の日礼拝 老人福祉施設訪問
- ・夏季教会キャンプ、合同礼拝
- ・篠原ボランテアによる畑作業体験
- ・畑作り、じゃがいも掘り、野菜の収穫
- ・栗拾い、さつまいも掘り
- ・JR東労組高崎地本 ソフトボール大会、ボーリング大会に参加
- ・県里親の会 ふれあい教室に参加
- ・自治会 納涼祭、夏祭り、運動会
- ・夏休み 各ホーム旅行、デイキャンプ、流星観賞会、アイス作り体験、流しソーメン、お泊り保育、バーベキュー
- ・群馬県理容生活衛生同業組合渋川支部様 散髪ボランテア
- ・前橋南ロータリークラブ様より サウンド・オブ・ミュージック招待
- ・小学校、中学校、幼稚園 運動会
- ・工場見学へ(サントリー 榛名工場)
- ・運動会の代休を利用
- ・群馬県児童養護施設連絡協議会 ドッジボール大会
- ・ソフトボール大会
- ・ミニサッカー大会

その他、多数の招待、奇贈等に感謝

平成二十五年十月入所児童状況

- ・ 幼児 六名
 - ・ 小学生 二十名
 - ・ 中学生 十六名
 - ・ 高校生 十名
- 計五十二名



JR東労組ボーリング、ソフトボール大会



里親の会ふれあい教室



農業体験



教会キャンプ



県ALT交流会



全日本プロレス!!



夏休み、沢山の思い出ができました。ディズニーランド、海、動物園etc



子どもの日の集い



学園を支えてくれる『ひと』

「社会奉仕と友愛」をスローガンに活動している渋川中央(旧子持)ライオンズクラブは、活動の一環として、二十年以上に亘り交流を深めて来ました。園生を元気づけることは何か? 育ち盛りで、食欲があり、体力をつけるのに最適はバーベキューということになりました。この間、文字通り、雨の日、風の日、時には雪が飛んでくることもありましたが、日頃は、座して食事待つメンバーが、童心に帰り、喜勇として、バーベキューに取り組む姿を、家族に見せたい位です。上手にできた焼き肉? を子どもたちが、たちまち平らげる。モリモリ食べて、元気に成長する姿。その成長していく姿に活動の生きがいを感じています。「継続は力なり」で今後も続けたい。

渋川中央ライオンズクラブ

会長 角田 登



日本キリスト教児童福祉連盟について

戦後、貧しくなった日本の児童福祉施設に米国(海外困窮児童援助団体CCT)により、大きな贈り物を与えられた。一つは物資、二つ目はキリスト教関係施設の子ども一人一人に援助を与えた。昭和四十年代に入っ、苦しかった経済状況も発展してきたので施設援助が打ち切りになった。このとき、金の切れ目が縁の切れ目になるのは残念だと今は亡き、子持山学園創立者 中澤英三氏の発案により、キリスト教児童福祉連盟が発足した。事業内容はCCTのパートナーとしての活動、施設相互の交流を協力し、日本とアジア諸国の児童の福祉の増進に貢献、キリスト者としての中堅職員の養成及び研修、年一回の総会を兼ねた施設長の研修会を実施していく様に決められている。今も約九十施設が加盟しており、子持山学園もその一つである。

日本キリスト教児童福祉連盟 発行
『基督教児童福祉 復刊第三号』より抜粋



子育てワークショップ

長い間、毎年参加させて頂いている研修のひとつとして、「子育てワークショップ」という研修を紹介いたします。

主催は、日本キリスト教児童福祉連盟、公益財団法人 資生堂社会福祉事業団、今年で第二五回目が開催されました。

この研修では、いろいろな施設で働いている方と出会い、その中で子ども達の支援に携わる仲間として心を開き、語り合い、体験学習を通して共に学び、専門性を高めていきます。

子育てワークショップでは技術や理論を学ぶ事を優先しているのではなく、一人ひとりが自分の思いや体験を振り返り、日頃の実践の根底にある援助観や人間理解について確かめることを大切にしています。

三日間の研修で、一日目は初対面でも打ち解け安心してワークショップに参加できるようアイスブレイクをしてリラクセスをします。初対面だった相手とも壁が無くなり距離が縮まります。話し合いの場でも自分の意見が出しやすい環境が自然と出来ていました。

各分科会では、体験学習や事例研究をしました。フラフープを全員の人差し指に乗せて落とさずに下げる、目隠しをする人と誘導する人に分かれ、一周してくるなどの体験学習をしました。自分の事だけではなく、他者の事を考える、やる気を起こさせるような声掛け、アイデア、目隠しされている人の不安な気持ちには子ども達の不安と同じような気持ちなど、体験を通してわかったこと、

気付いたことが多くありました。

今年度の主題は「子どもと地域の関わり」でした。地域との繋がりについて他施設の話聞き、本園ではどういったところで繋がっているのかを改めて考えました。考えを深めていく中で子どもは地域の中で育っている事、施設も地域に大きく支えられているのだということが分かりました。子どもを取り巻く環境には施設、保護者、地域、児相とあらゆる人が関係している事を忘れず、子ども達の今後(将来)を見据えて皆で協力し支援していくことが大切なのだと思ふ機会になりました。講師の方も事例研究に参加し、そのケースに合ったアドバイスをして下さり、専門性や知識を身に付ける事が出来ました。分科会のメンバーと充実した時間を過ごす事が出来た研修でした。

また今年から、今まで子育てワークショップに参加した方が帰ってこられる機会として第一回目のフォローアップ研修が開催されました。子育て

ワークショップに参加したという共通の体験をもつ仲間として集まり、ワークショップで学んだことを活かしている体験談や、新しい課題に取り組んでいる等、苦労話を共有する場を作って頂きました。フォローアップ研修の主題は「専門性をより高めるために」として四つの異なる分科会にわかれて研修しました。二日間の研修で、意見を出し合ったり、体験学習をしたりとしましたが、白熱した時間はあつという間にすぎしまし、もつとたくさんやりとりできたら...と思ふ所がありました。学び事が多く、このような機会を作ってくれた方々に感謝し、この会が更に発展することを願います。(飯島)



お心遣いご感謝致します

寄付金 (13・4・13・10) 敬称略・順不同

音藤医院、大嶺真勝、蛭川かつ子、中村光孝、星野隆、小野澤昇、旭石材工業(株) 御春山商店、渡川皮膚科医院、八百耕、新島学園短期大学(株) 孔文社印刷、大類博史、坂庭昇、(有)月建設、布施英俊、小野徳太郎、柳井広史、飯島克二、長島真、中澤直香、渡川中央ライオンズクラブ、豊田町子、岡田郁之助、太田翔平、秋山賢司、中澤文子、松田智行、矢内麗作、子持郵便局、町田正史、飯塚寛巳、鯉沢自治会長、小澤勝治、原澤重子、島田卓爾、鯉沢郵便局、埴田昭三、渡川教会、渡川教会子ども教会、佐藤隆夫、石原正巳、小山一成、竹之内久子、洪川市社会福祉協議会子持支所、小野至二郎、群馬県社会福祉協議会、陸川恭太、斎藤止子、おさむ精肉店、横手商店、石原貴雄、外山晴子、妹尾秀治、田代鮎子、(株)島田製材所、宮下智満、豊田充子、森田利昭、小山好作、高橋登美子、狩野恵理、高橋謙、三愛社、斎藤賢、中野順夫、石井久子、石坂恒二、近藤みさ子、石田和男、春日園、松田次夫、長塩信吾、斎藤操、福島桂、塩谷博、鈴木彩乃、大塚廣末、水上洋品店、島村美也子、日本善行会群馬県北毛支部、石北医院、須田勝、石関幸利、木村三都子、酒井弘治、海野義政、群馬県生命保険協会、山口道子、萩原剛雄、ミトト星野、子持地区更生保護女性会、野田幸一、小島昭、上原澄次、匿名の方

他多数の各位

寄贈物品

三国コカ・コーラボトリング(株)、松村富久江、群馬県消防設備協会理事長星野義夫、堺商店、藤井正雄、こはるひ、曾川正、(株)サニクリーン、(株)アベックス、こはるひ、JR東労組高崎地本、(株)ユチユアンナ、柿沼弘之・洋子、水澤亭、小野喜美夫、並木なつ江、武藤孝夫、崖権旅館、(株)南澤建設、中澤文子、池田雅子、石北敏一、吾妻教会、横町英子、高岡孝志、相崎工務店、大塚トナ子、高橋はるみ、柳井元子、大橋栄六、居酒屋たぬき、一般社団法人日本レコード協会、阿弥陀様の湯あだち、松村富久江、岡村広美、中島里美、町田勝次、五十嵐研介、日本スポーツ用品協働組合連合会、小沢二二、中島久美、木村幸子、コストコホールセール前橋倉庫、四つ葉友の会会長(洪川市社協子持支所内)、丹羽稔、匿名の方

他多数の各位

下段に続く

ボランティア

児童交流(狩野誠實、星野麻未香、ベビーマッサージ) 林弘子、書道 山口道子、大塚廣末、絵画教室、ピノキオ絵画教室、学習 群馬県青年赤十字奉仕団、宮下せいら、中野宏栄、小池歩、福本亜葉、高橋謙、ピアノ 鈴木音楽教室(洪川市)

掲示板

・苦情解決報告 計一件 (平成二五年四月〜平成二五年十月) 内容「子ども同士のトラブル(暴言等)」結果「苦情解決責任者立ち会いのもと、暴言のあった子どもへ指導・反省を求め、訴えていた子どもへ謝罪。円満に解決。」

★ご支援・ご招待等々★
★ありがとうございました★
★心から感謝しております★

県共同募金会様「NHK歳末たすけあい」普通自動車免許取得のため三名の高校生が一人二十万円の支援(配分)を受けました。県民の皆様のご善意に感謝します。

日本善行会群馬県北毛支部様
白と杵で情緒あふれるお餅つき(十一月)ゴルフコンペの収益金も賜りました。

群馬県生命保険協会様
二十万円の寄贈。子ども用パソコン三台を購入させて頂きました。

匿名の方から
年賀はがき二百枚が届きました。子どもに配分します。

(株)ニユー東京様
衆生生命(株)社会貢献推進部様
念願の子ども用学習イスを整備。

JR東労組高崎地本様
ボーリングやソフトボール 文化祭に招待。

(株)アベックス様
高級枕・布団カバーを見重・職員、全員分とても温かく冬を迎えています。

ユチユアンナ(株)様
子ども用靴下を沢山
モコモコの靴下でホームでも快適です。

コストコホールセール(株)前橋倉庫様
リョックサックを沢山。遠足に大活躍!!

WRESTLER 1様
子どもたちをプロレスの試合に、会場の大歓声に子どもたち大興奮!!

ザスパ草津様
大西シートへ。ホーム最終戦を満喫!!

軽井沢おもちゃ王国様
「おもちゃ王国の休日」として幼児さんを無料招待。おもてなしに感謝

NPO法人オレンジリボン様
ゴスペルライブに無料招待
VOX RAYの演奏もあり充実感満点

群馬県美容生活衛生同業組合洪川支部様
散髪ボランティアで来園されました。十一月にも来て下さいませ。

群馬県里親の会様
「里親の会ふれあい教室」に小学生大勢が参加。木工体験、パーベキューなど、夏休みの思い出ができました。

群馬銀行様
八十周年記念事業「由紀さおり・安田祥子 三三群響」コンサートへ招待

県ALT(外国人教師)様
沢山の方が来園され、子どもたちと交流を図って下さっています。英語が上達した!!

お米、洋服、野菜、果物、子どもとの触れ合い、励まし、寄付等々、大勢の皆さまの温かな善意の上に私たちの生活が成り立っております。今後とも宜しくお願ひ申し上げます。

北極星

学園へ就職し、なにも分からず、日々奮闘する中で受け持った子どもたちも今は成長して小学校の最高学年となりました。体も心もあの頃とは何倍にも成長した姿に嬉しさを感じます。日々の関わりの中で話をする内容も悩みも大人に劣る事のない一人のひととして育ちました。過ぎてみるとあつという間ですが、日々悩みの連続でしたが、その分喜び事も多くありました。職員も子どもと共に成長しているのだと思います。そして、また多くの人に支えられているのだと思います。

(町田)



園庭をイルミネーションできれいに飾りました!